

# 南丹市総合教育会議議事録

<平成30年度第1回>

平成31年2月26日

## 平成30年度第1回南丹市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成31年2月26日(火)  
開会：午後4時00分 閉会：午後5時00分
- 2 場 所 南丹市役所 2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題  
(1) 南丹市教育大綱の制定について  
(2) 教育課題について
- 4 出席委員  
西村市長、  
木村教育長、武田教育長職務代理者、高屋委員、城戸委員、杉尾委員
- 5 会議に出席した職員  
＜説明員＞中川教育次長、榑教育参事、福井教育総務課長、  
山内学校教育課長、村田学校給食共同調理場所長、寺田社会教育課長、  
野々口子育て支援課長、浅田社会教育課長補佐、辻社会教育課長補佐、西  
社会教育課図書館係長  
＜事務局＞中川定住・企画戦略課長、片山定住・企画戦略課企画係長
- 6 傍聴人 4名  
内2名(報道関係)南丹市情報センター
- 7 会議の経過

### ＜1＞ 開会(進行：事務局)

#### ◇市長あいさつ

本日、平成30年度の第1回南丹市総合教育会議を開催させていただきましたところ、教育委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席を賜りましたことを厚くお礼を申し上げます。さらに本日は傍聴席の方に市会議員の先生方、特に日頃から教育問題に大変熱心にご質問もいただき、また日常の活動の中でも素晴らしいご支援を賜る活動を行っていただいておりますことに深く感謝を申し上げます。教育委員の皆様方にも、平素は本市の教育行政の推進につきまして色々のご指導やご協力を賜り、度重なる会議にもご出席をいただき感謝を申し上げます。

ご承知のように、この会議につきましては、市長と教育委員会が教育課題や目指す方向をしっかりと共有して連携しながら教育行政を推進していこうとするものでございます。また市民の皆様から選ばれた首長が教育に関しても責任を負うという目的で設置されたものです。ご承知のように大津で生徒の自殺事件がありまして、その時に問題の解決に向けての取り組みがスムーズにいかなかった。その時に、特に迅速な対応の仕方や責任の所在をしっかりとすることが必要とのことで制度が改

められ、本日こうした会議が開かれるものです。

私自身も市長に就任をさせていただく時に、市政推進の大きな柱として教育、文化さらにはスポーツ、人権尊重のまちづくりを大きな柱としまして、未来を担います子ども達の発達の基礎となる教育、想像力や思考力を伸ばす教育活動の推進ですとか、とりわけ本市に豊かに残っております歴史や文化を地域の大切な遺産として、また個性あるまちづくりの源として活かしていく、さらにはスポーツの推進、そして何よりも大切な人権の問題につきましても市を運営していく基本的な姿勢として、差別をなくす啓発活動や教育活動にも積極的に取り組んでいく必要があるということで掲げさせていただいたものでございます。そのためには教育委員会と市長部局が連携をしていくことが極めて大切なことであると思っております。

この会議では教育大綱や教育に関します南丹市の現状・課題につきましても、委員の皆様と協議や意見交換をさせていただき、共通の認識を持ちながら今後の南丹市の教育の質を更に高めてまいりたいと考えております。そういった意味からも教育委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げますとともに、教育行政の推進により一層のご指導やご協力を賜りますことをお願い申し上げます。開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

#### ◇教育長あいさつ

平素は西村市長におかれましては、教育行政の部分でご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年4月から新教育制度になりました。今回、西村市政になって初めての総合教育会議でございますが、今後とも市長と教育委員の皆様とともに、教育の課題の解決に向けまして意志疎通を十分とっていきたいと思っております。今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、市会議員の皆様におかれましても今後ともご理解、ご指導をよろしくお願い申し上げます。本日は色々お世話になります。どうかよろしくお願い申し上げます。

### <2>議事（進行：市長）

#### （1）南丹市教育大綱の制定について

○教育委員会教育総務課から資料により説明

##### 【要旨】

- ・本年度に策定した「教育振興基本計画」を、現在策定されている南丹市教育大綱に改定して定めることを提案する。

##### 【市長】

南丹市の教育大綱となる第2次南丹市教育振興基本計画について、今の説明に対してのご意見やご質問があればお願いします。内容的にはコンパクトでやや抽象的な部分もございますが、南丹市の教育の指針などで目標を設定して、それぞれの年度で具体化をしていくプロセスになっています。少し抽象的な部分もありますが、必要なものを網羅し、整理して記載されていると思いますので、ご意見賜りたくよろしくお願い申し上げます。

私の意見を先に述べますと、最近へき地教育研究集会に出て、美山学のふるさと教育などを見てみますと、これからの世の中で若者がどんどんまちから消えていく、外に出ていってしまう、しかしながら、何とかこの住み慣れた地域を盛り上げていきたいという郷土愛を育てていくことが非常に大切です。これは美山に限らず、日吉・八木・園部どこにも共通した課題でもありますし、4ページにもあります「ふ

るさと南丹市を愛する心の醸成」の項目が挙げてありますが、非常に大切な点であろうと考えております。それから5ページのⅢ-①で「ダイバーシティ教育の推進」と大変難しい言葉を使っておりますので、説明書きもありますが、人種・国籍・ジェンダー・年齢・障害・宗教・価値観などの隔たりに超えてお互いに尊重するというのですが、部落差別解消法が制定され、本市では人権問題の中でも特に部落差別の解消に向けた取り組みも重視していかなければならないことで、当然、今日学校でも非常に力を入れて取り組みを進めていただいています。社会教育でも同様です。そういった意味で、「部落差別」という言葉をしっかり書き込む必要があるのではないかというのが私の意見です。

#### [委員]

南丹市を愛する心の醸成、私も色々な教育の力があると思います。子ども達の中には世界に羽ばたくような子どももいるかもしれませんが、その中の何%かは地元に残って、南丹市を盛り上げる心をつくっていくことに集中されているように思います。最終的にここは到達点なのかと思いながら見させていただいて、隅々まで教育内容を網羅したものですので、これに基づいて制定をしていただいたらよいと思います。

#### [市長]

おそらくここに出てくるのは、教育委員様からの日頃の色々なご指摘・ご助言等も加味して、事務局で原案が練られていると思いますので、さらに練るとなるとなかなか難しいと思います。教育委員の皆様方から日頃出ているご意見で「地域ぐるみで考える子育てをなささい」とか、「文化財を活用した魅力あるまちづくりを大事にしなさい」とか、「学校給食でも地産地消の考え方でふるさとの食べ物を食べることが大事である」といったことが網羅されていると感じています。

#### [委員]

私もふるさと南丹市を愛する心や教育の推進で思っていることを述べますと、小中学校で、地域やふるさとの良さを学んだり、学校ごとに教材や資源があり、色々な人材もおられますので、色々な方と出会って地域の魅力を学習したり、体験フィールドワークなどで地域を見たり知ったりすることをされています。小学6年生とか中学3年生とかの節目に、将来のことも考えて自分が勉強してきた地域のこと、南丹市のことをシミュレーションする。自分が南丹市に残ったらどんなメリットがある、あるいは残らなかったらどんなデメリットがあるとか。就職などで南丹市を離れる人がたくさんいると、地域は寂れたり淋しくなったりしますが、残る場合の良さとか先を見通した様なことを体験・学ぶ機会が大切です。学校ではキャリア教育も進めますけど、なかなか中学3年生くらいで10年後・20年後・30年後まで見通すことは、社会的な経験も少ないので難しいとは思いますが、先々の見通しを自分なりに考えたり決定したりする機会は大切かなと感じています。せっかく大事な地域の事を勉強しますので、地域を残すあるいは振興するためにどうすればよいか子どもなりに考える機会や、自分だけでは分からないので先生や保護者・地域の方の意見も聞きながら学ぶ機会もあればよいと考えています。

#### [委員]

5 ページのユニバーサルデザイン環境とかバリアフリーについてですが、最近ニュースなどでアルバイトの方がモラルのないような映像を取り上げることがありますが、なぜあのようなことをするのか考える時に、例えば24時間コンビニが開いている事が普通になってしまって、そこで働いている方に感謝し、感謝を伝えるということがなくて、もしかしたらそのアルバイトの方々に働きがいというものがないのかなど考えることがあります。便利なユニバーサルデザインとかバリアフリーもそうですが、色々な方々が便利だなと感じることに対して、感謝やありがたいなと思うような機会があればよいと思います。

あと6ページのⅢ-②-3に「子どもが地域社会で活躍できる場を創出します。」とあり、とても嬉しいことですが、この時に具体的に思ったのが、私は赤い羽根共同募金の委員をする中で初めて理解できたのですが、募金はどこでも募金ですが、南丹市内で募金をすることによって南丹市の活動の援助になることを、小学校や中学校の義務教育の間に学んでもらって、まだ働いていない自分達の段階でも南丹市のためになることができる、守られているだけでなく南丹市に対して自分達も力になることがあるという感覚を身に付けてもらったら、将来的に南丹市にどう関わっていくかの一步になるのではないかと思います。

#### [委員]

6 ページのⅢ-②-2の「地域における子どもの居場所を充実させます。」というところで、まず学童保育の施設を直してもらうことを大変ありがたく感じております。どうしても保育所と学童保育の時間差がネックになっている部分があり、保育所は7時まで、学童保育はスタッフの関係上6時半までしか運営ができないので、その30分の差で保護者が残念ながら職業を変えないといけないということをお聞きする場合がありますので、できるだけ学童保育も7時までできるような環境を整えていただけたらありがたく思います。

#### [市長]

それぞれ補足的・補強的なご意見とか、体験を通じたお話しをいただきましたが、教育大綱について内容の修正や不足などの意見が特段ございませんでしたので、事務局から提案がありました第2次南丹市教育振興基本計画をもって南丹市の教育大綱とすることにご異議がございませんか。

(異議なし)

お認めいただけましたので、事務局の提案に、一部私がお願いした文言の追加を含めまして教育大綱とすることに決定いたします。

その上でこれをさらに進めて行くために、それぞれの節目での南丹市教育の指針を策定して具体化していくということになります。

### (2) 教育課題について

#### [市長]

本市の教育の課題につきまして、私の方からは、ちょうど保育所・学童保育の話がありましたので、当面の取り組みの方向として、保育所をまず量的に確保していくためにも、民間の保育所を誘致していく取り組みを現在進めています。大切な子ども達の保育活動ができるしっかりとした法人をと、心は焦っておりますが、できるだけたくさんの方々に関心を持ち、手を挙げていただいて、その中から一番良い

ところを選定していきたい。現在2か所ほど手が半分挙がっておりますが、まだしつかりというところではなく、色々条件などの摺合せもこれからしていく中で、最終的に決定する必要があります。延長保育の課題については、人材確保の兼ね合いで、どこの法人も保育士の確保に非常に苦しんでおられますし、本市自体も大変苦しい状況です。施設のスペースについても市立の保育所が一部限界に来ておりますので、新しい民間保育所とうまく共存できる取り組みとしていきたい。

学童保育の問題については、とりあえず緊急を要する八木東からスタートをして、園部は平成31年度中に設計を終えて平成32年度に施設整備を終えたいと考えています。最近問題になっております児童の食事にも必要に応じて対応していけるような、学童保育プラスの施設にしていきたいと考えています。先行して民間団体の財源がほぼ確保できそうですので、園部の学童保育については、先に学童保育対策の取り組みプラスの施設をつくり、その横に引き続いて学童保育施設を予定しています。

働き方改革では、学校の先生はゆとりのない中で、きめ細かく一人一人の子ども達に気を配り、指導していくのは大変です。事務的なことを先生にお世話になっている場面が多く、負担軽減と公務の合理化のため「校務支援システム」の導入を進めることで、今決めていただいた教育大綱を実現していくことに力を入れて欲しいと考えています。

読書教育は、体制づくりから取り組まないといけないので、少し準備に時間がかかりますが、ゼロ歳からの読書教育もこの中に位置付けてありますし、教育委員会の方で既に色々考えていただいています。

公民館施設の改修にあたっては、大きな予算を計上していますが、必要なものですので、財政厳しい中ではありますがよろしく願います。

虐待などの悲惨な事件が南丹市では今のところ起きていませんが、日頃からどのような考えをお持ちかを聞かせていただけたらと思います。

## [委員]

学校給食を通じたまちづくり、まちおこしができないものかと考えています。以前、兵庫県の香住町で学校給食にカニを1人1杯ずつ出した事例があり、全国放送で大きくPRされました。香住町は「カニのまち」と大々的にアピールされてきました。南丹市でも同じようなことができないかと考えていまして、まず使える特産品として松茸や栗、黒豆などがありますが、松茸は高すぎて使えませんし、栗とか黒豆は今までから取り組んでいますので、あまりPR効果がない。そこで美山の鮎が使えないかと考えています。美山の鮎は、全国で2位の評価を受けている南丹市の誇るべき特産品です。それを1匹ずつ鮎の塩焼きで出せないかと考えています。かかる費用は、中学生全員に出して40万円くらいだと思います。僕らの歳になっても小学校の時に給食で何を食べたかをよく覚えています。子ども達に鮎を塩焼きで食べることを経験させると、大きくなって鮎の塩焼きを食べる度に、「学校給食で食べさせてもらったな」と思い出し、その度に南丹市の良さ、美山の良さを思い出す機会になるのではないかと思います。美味しい鮎を食べると、なぜこういう美味しい物ができたかを考えます。美山の自然がその鮎を育んだことも出てきますので、自然を愛して維持させる気持ちを育む、学校給食の教育という面でも大きな利点があるのではないかと思います。学校給食で鮎の塩焼きを出した事例を聞いた事がないので、それが全国的に放送されると、南丹市のアピールという点では大きな成

果が出るのではないかと思います。美山の鮎を食べに全国からお客さんが来てくれるのではないかと、料理屋さんや民宿の人に鮎の塩焼き作りを手伝ってもらえないかとも考えています。美山の自然をPRすることで定住者も増えるのではないかと、またそこで育った子ども達が帰って来てくれるのではないかと考えています。学校給食を通したまちづくりができないものか、まちおこしができないものかと提案をいたします。

#### [市長]

大量に一度で対応するのはなかなか難しく、塩焼きは慣れた人がやらないと難しい。私は子どもを河原へ連れて行って皆で焼いたらどうだろうとも思いますが、なかなか設定が難しい。特に美山中学校、八木中学校、殿田中学校はまだ人数がそんなに多くないが、園部中学校は大変な量になります。一度にはなかなかできない、かといってモデル的にやると、食べた子、食べてない子ができてしまう。やるとすれば卒業するまでに1回くらいしかできない。

ほかにも、日吉の生産組合が納豆餅を作っておられます。最近の子ども達は納豆餅をあまり食べてないので、考えれば色々あると思います。同じものを出すのもよいが、地域によって地域の自慢のものを地域の子どもに食べさせるとか、一律で同じ物でなくてもよいのかなと思います。

#### [委員]

市長のご挨拶の中で、歴史とか文化とかそれぞれの地域の個性というキーワードがありましたが、文化財行政も教育委員会は担っています。文化財にも様々あり、小さなものから集落全体の景観の維持まで幅広い分野があります。南丹市を見ますと、色々なところに素晴らしい景観がまだまだ残っていると感じています。今、かやぶきの北地区がクローズアップされていますが、それ以外にもたくさんある。ただ古いものを残す場合、放っておけばよいわけではなく、経費がかかります。文化財の力を使えば、国・府など色々なところから維持経費も入ってきますし、昔ながらの景観も残していけるのではないかと思います。この教育大綱の中には、「ふるさと南丹市を愛する心を育む」という中で、「ふるさと」というキーワードで誰もが色々な思いを巡らすと思います。その中で昔育ったふるさとの情景を思い出す方がたくさんいると思います。文化財の力を使って、景観をしっかりと残す、保全をすることになると、そこに人もたくさん訪れることになって、そこに住んでいる者も誇りを持って生活し、子ども達は誇りを持って成長する。そしてまたその子ども達が自分のふるさを思い出し、Uターン等にも繋がっていく。もしくはIターンという形になるのかもわかりません。古い景観を残していくとなると、長年人を惹きつける力を持ち続けることもありますし、古いものはどんどん競争相手も減っていきまので、年数が経つ毎にクローズアップもされると思います。教育委員会の中でも文化財行政を上手く使って、そんな方向が出せればと思っています。ただ文化財として大きなものを残していくとなると、教育委員会の力だけでなく、地域を巻き込んで、また南丹市としての推進力も必要だと思います。市長部局・教育委員会部局という言い方が良いのか分かりませんが、南丹市一本で進めていければ、より魅力ある南丹市が作り上げられるのではないかと考えています。重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）や重要文化的景観など色々な景観保全の手法があります。魅力ある南丹市をつくって、文化財の力がしっかりと地域に活性化をもたらす、人をつく

ったりしながら、色々な場面で教育の力を発信できればと思っています。今の南丹市の景観条例は旧美山だけですが、議会でお認めいただいたら、地域全体・南丹市全体、色々なところに景観の条例が波及していくと思います。良い景観をいつまでも残して、そこに住む人達が誇りを持って、これからもますます輝くまちにできればと思います。

### [委員]

地域ぐるみで考える子育てに関するのですが、子ども達は学校教育で色々な体験をします。30代から40代のお母さん方が多いのですが、色々な本を読んでいますと、買い物できたり、交流できたりする洒落たお店や空間があるところは、お母さん方が好んで住まれる傾向があって、そのまちは活性化して、人を呼び込んだり、定住も図れるというようなことを書いておられます。

女性の社会進出も進んで、子育て中の方も学童とか保育所の延長で働かれるのはよいことですが、一方で子どもと接する時間が少なくなっていて、帰ったら食事を食べさせてお風呂に入れたり、色々なことでバタバタされる家庭が多いようにも思います。

私も学校現場で仕事をする中で思うのは、子どもたちは本を読む機会が少なく、教科書程度の文章も理解できない子が多く、学年にもよりますが半分ないし3分の1くらいの子が教科書の文章が読めないという実態があります。色々なテストもするのですが、テストの問題自体も何を聞かれているのか、どう答えたらいいのか、質問自体も分からないケースもあります。学校では読み聞かせのボランティアの方にも来ていただき、本に触れる機会はあるのですが、リーディングスキルを育てることをしておかないと、将来、AI、人工知能によって今の仕事の半分近くが機械にとって代わられてしまうのではないかと危惧されています。そうした状態が予想される中でAIが対応できない仕事をしようとする、読む力とか理解する力、しっかりと発音したり発信したりコミュニケーションの力をつけておかないと、学校を卒業するが就職もままならない時代が、あと20年か25年先には訪れるだろうと心配されています。自分が読んだ本の中のことですが、実際に50%くらい仕事が無くなると大変なことで、働きたくても機械が全部オートメーション的になるので、学力や読解力をしっかり付けておかないと大変なことになると感じています。是非、学校も家庭も含めて読書とか活字に触れる機会、読解力がしっかりと身に付いた子どもを育ててほしいと思っています。

### [市長]

学校現場だけでなく市行政も関わって力を入れないといけないテーマとかも教えていただければと思います。景観の問題にしてもおそらく各部局にまたがった取り組みになりますし、文化財にしても、どのように住民の問題意識や関心を高めていくかは、教育行政だけではなかなか取り組めません。そういうことも連携の課題になりますので、普段から考えていただいていることを、このような会議の場でなくても、日常の教育委員会の中でもお寄せいただけて情報提供いただければと思っています。

また先ほどから食育、ふるさとの食べ物、読書活動、バリアフリー、募金の話などいくつかのキーワードが出ています。そういうものを教育行政や一般の行政に反映していけるよう共通認識をみんなで持てればと思います。



### [委員]

私は南丹市でしかできない子育てについて、子育て世代の方がそれぞれのペースでお子さんに関わりながら子育てができるような施設や制度を整えてもらえたらと思います。若い親御さんの中でもゼロ歳児から保育所に入れて働きたいとの考えをお持ちの方もありますし、それを必ずしも望んでいないとの声も聞きます。ゼロ歳児から保育所に入れないと、希望の場所に入れないので止むを得ず早くに入れてしまう状態もあるようです。南丹市で仕事をしながら子育てする場合、例えば「3歳になってから仕事がしたい。」とか「下の子が何歳になってから仕事をしよう。」など各家庭のペースで仕事が始められるような、早い年齢から空いている保育所に入れてしまわないと身動きが取れないということがないようなサポートができればと思っています。また、今は少ないかもしれませんが、子育てだけでも一つの立派な仕事だと思います。子育てに専念するスタイルも認めていただいて、どのような子育てをしても、南丹市は子育てしやすい場所であると認めてもらえるような取り組みをしていけたらと思っています。

### [市長]

今、自発的にお母さん同士の繋がりを作って情報交換するなど、自ら楽しもうという波があります。活動が活発な時期あるいは消えてしまいそうな時期とかあるのですが、そういうことも組織にしていける様な働きかけというのは、どこでどうやったらよいのでしょうか。昔は働き方が全然違いましたので、家庭教育学級とか、積極的にPTAと連携してお母さんが出てくる、あるいは保育所の父母の会などでそういう働きかけができていましたが、今の実態からすると、組織をしていくゆとりがないのは事実ですが、ゆとりがないと言っていたら何もできません。そういうことも取り組めるような南丹市になればというお話ですね。

### [委員]

八木では、BGプールは夏には子ども達が毎日通う場所であったと思うのですが、この前の台風の被害があって使えない状態ですか。

### [市長]

配管や循環装置などが使えなくなっています。直そうとすると約1億8千万円必要で、年間の収入が約26,000円です。

文科省が補助金を出しますが、いずれプールの補助金等が打ち切られるまでに、来年度、八木東小・八木西小のプールを直さないといけません。小学校のプールも監視員の問題で毎日朝から晩まで雇うことはなかなかできませんが、プールも少し悩みの種です。

非常に仰々しい感じでお話しにくかったかと思いますが、事務局案については、ワークショップなどをしながら、かなり幅広く情報を集めて凝縮してあり、皆様方からもご賛同いただきました。また毎年の教育の指針で更に具体的な目標と設定していきますので、引き続いて教育大綱の実現に向かって皆様方の格段のご協力をお願いします。

### <3>その他

**[市長]**

その他、何かございませんか。

(特になし)

今日は重要な話もありましたので、重く受け止めまして、今後の市政の中、教育行政との連携の中で取り組みを深めていきたいと思っておりますので引き続き協力をよろしく申し上げます。

**< 4 >閉会**

**[事務局]**

以上をもちまして平成30年度第1回南丹市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。